

無題（息子が亡くなったことについて）

千葉市 29歳 男性

平成21年9月25日に事故は起きました。夕方に妻から電話があり、「息子が事故にあった。」と聞かされました。私は妻をなだめて、社長に事情を話し、すぐに病院に行きました。

病院に着くと、真っ赤に目を腫らした妻がベンチに座っていました。妻に「大丈夫だよ」と声をかけて、しばらくすると先生に呼ばれ診察室へ。先生の話によると、息子はすぐに手術をすれば大丈夫だろう。と言っていたので、私もきっと大丈夫だろうと思っていました。

そして、やっと息子の顔を見れたのですが、その瞬間に私の中にあつた余裕の気持ちは一気に絶望に変わりました。

顔は大きく腫れ上がり、今朝見た息子とは変わり果てた姿でした。

私は手術室に行くまで何度も息子の名前を呼んだのですが、反応はなく苦しうに呼吸をしていました。

息子は手術室に運ばれ、待合室で待っている間、私は神様にずっとお願いしていました。神や仏を信じる人間ではなかったのですが、あまりに変わり果てた息子の姿にもしかしたら、という思いが私に大きくのしかかり、必死に息子の手術が成功して、元気な姿が見れますようにと祈り続けました。

どれ位の時間が経ったのでしょうか・・・先生が申し訳なさそうな顔で手術室から出てきたので、私は悟りました。

「ああ・・・きっと息子は・・・」

そして先生から告げられた一言は・・・

「一生懸命に処置をしたのですが、出血が止まらず、今付けている人工呼吸器を外せば・・・」

私は溢れる涙を抑え、妻に

「Rは頑張ったよね？これ以上辛い思いをさせるのはよそう。」

妻も溢れる涙を抑え静かに頷きました。

私は、先生に「外してあげてください。」

とだけ告げ、妻を抱き寄せ、思い切り泣きました。

君とお別れしてから、早いもので一年たつね。1日たりとも忘れたことはないよ。

今でもひょっこり帰ってきそうな気がする。家の中を見渡すと君との思い出がいっぱいある。7月2日に君の弟が生まれたんだよ。

やっぱり兄弟だね。君の赤ちゃんの時に似ている。心臓に穴が開いているみたいで病院に通っているけど、そんな風に見えない位元気いっぱい育っている。心臓の穴はそんなに心配しないでも大丈夫らしいから、君も心配しないでね。家を見渡せば君との思い出がいっぱいあるのに、君を抱きしめることも出来ない。小さな手を握りしめてあげることも出来ない。すぐそこに居るのに、もう君の声を聞けない。もっといっぱい遊んであげれば良かった。もっといっぱい抱きしめてあげれば良かった。もっと・・・もっと・・・。

あの日、君の横で一晩中泣いた。悔しくて悔しくて・・・。

何も出来ない自分に悔しくて・・・。怒ってばかりいた自分がゆるせなくて。

だけど怒っていたのは君の事嫌いだからじゃないんだよ。パパみたいな駄目な大人にならないで欲しかったから。立派な大人になって欲しかったから。こんな事になるなら、もっといい子いい子してあげたかった。パパもママもみんな元気にしてるから、ゆっくり休んで。こんなパパの子供に産まれてくれてありがとう。生まれ変わったら、また家族になろうね。

